SSH 通信 特別版 No.6

戸山＆お茶高理系女子育成連携プロジェクト
女性研究者にインタビューしました

SSH Super Science Highschool
科学の力で未来を共創する
女性リーダー育成
カリキュラムの実践
お茶の水女子大学附属高等学校 SSH

2025. 1. 16

都立戸山＆お茶高理系女子育成連携プロジェクト「女性研修者にインタビューしてみよう」は、両校の生徒が組んで女性研究者にインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校生徒に向けて発信するプロジェクトです。
ここでは 1 年生 1 名、2 年生 3 名が 2024 年 11 月 7 日、東京科学大学の叢悠悠先生にインタビューした記事をご紹介します。

叢悠悠（そう ゆうゆう）先生は、お茶高・お茶大出身の先輩です！現在は、東京科学大学（旧東京工業大学）でプログラミング言語の研究をされています。
約 1 時間のインタビューの中から、いくつかの質疑を取り上げてご紹介します！

Q どのような研究をされているのですか
A 主にプログラミング言語について研究をしています。なかでも、数学や論理学の技術を使ってプログラムの正しさを保証したり、初心者でも楽にプログラムを記述できる言語を開発したりすることに興味を持っています。

Q 研究者を志した動機はなんですか
A エンジニアのようにプログラムを書くことよりも、プログラミングの背後にある理論に興味があったためです。また、人に教えることにも興味がありました。

Q 研究をしていて面白いと感じるところはどんなところですか
A 複雑なプログラムをシンプルな形に抽象化できた時に面白いなと感じます。

Q 女性研究者ならではの経験はありますか
A この分野には、アジアの女性がとても少ないため、論文の査読や学会の運営に関する依頼をたくさん受けます。これによって仕事が増えますが、そのかわり研究者の中で覚えてもらえたり、多くの海外の人と仲良くなったりすることができます。

Q 3つの大学に留学したのはなぜですか
A きっかけはお茶大に留学プログラムがあったことです。また、お茶大は小規模な大学なので、海外の大学ならレベルの高い本物の研究が見られると思ったことも理由です。

Q 留学で驚いたことはありましたか
A 生活をしている中で、価値観の違いを実感しました。例えばニューヨークでは、店員さんの袋詰めが雑でクロワッサンがつぶれてしまっていましたし、スウェーデンではカーテンが燃えても周りの人が慌てないことに驚きました。また、みんなコーヒーを飲みながら高度な話をしていて、教養レベルの高さを実感しました。

Q 海外の人とのコミュニケーションで困ることはありますか
A 英語の授業の内容などは分かりますが、日常会話は今でも分からないことがあります。ですが、実際使って

いけば英語力は伸びていきます。特に、最近自身の授業を英語で実施したことにより、とても力が付きました。

Q　研究が行き詰ったときの対処法はありますか
A　その分野のエキスパートに聞くようにしています。これは勇気がいることですが、研究者の方は皆次世代を応援してくれているため、喜んで質問に答えてくれます。

Q　高校生のときはどのように勉強していましたか
A　数学の難しい問題は苦手で、回答を覚えるくらい 4STEP を繰り返し解いていました。学校の成績はしっかりとるようにしていましたが、やりたいときにやりたいことをしていました。お茶高には勉強を頑張る人がたくさんいるので、その環境のおかげで頑張ることができました。

Q　上手に発表をするコツはありますか
A　もともと発表が得意な方ではありませんでしたが、経験を重ね、自分が楽しめるような発表ができるようになりました。そうすると、聞き手も楽しくなって覚えてもらえるし、自分も発表を好きになれます。出だしからジョークを言って高評価だったこともあるので、テンションを高くして発表するとよいと思います。

Q　お茶大と他大学の違いを感じることはありますか
A　お茶大は女子しかいないこともあり、発表練習などの場でもらうコメントが優しかったです。このように居心地の良いお茶大に対し、科学大は男子からのコメントが厳しいことが多かったので、強いメンタルが必要になりました。お茶大で自信を持てたからこそ、科学大でも頑張れているのだと思います。

Q　大学院に行くメリットはどんなところですか
A　自分でまとまった研究をする経験ができるところです。博士になると研究を0から行うため、難しいところもありますがよい経験になります。お茶大ではほとんどの人が大学院に進むため、大学院で研究をするのが流れでした。

Q　最後に高校生に向けてメッセージをお願いします
A　勉強以外に何か好きなこと・打ち込めることをもっておくことをおすすめします。後に思わないところで研究につながったり、他分野の人と仲良くなれるきっかけになったりするので、何か打ち込めることを見つけてください。

インタビューの感想
★実際に研究者として活躍しているお茶高の先輩のお話を聞いて大変勉強になりました。
★高校時代の学びが今に生かされていることなどを知り、日常での学びを大切にしたいと思いました。

叢悠悠先生　ありがとうございました！